

関係各位

NDC 日本ドライケミカル株式会社

代表取締役社長 遠山 榮一

(コード番号：1909 東証第一部)

OKI との共同開発に関するお知らせ

日本ドライケミカル、OKI と光ファイバーセンサーを用いた防災・減災に寄与する「異常温度リアルタイム監視ソリューション」を共同開発し、両社で販売開始

当社と沖電気工業株式会社（代表取締役社長：鎌上信也、本社：東京都港区、以下 OKI といいます。）は、災害の予防や減災に寄与するソリューションとして、光ファイバーセンサーを用いて火災などの災害につながる異常な温度上昇をリアルタイムに監視する「異常温度リアルタイム監視ソリューション」を共同開発し、本日より両社で販売を開始します。両社は 2014 年 8 月の業務提携以降、双方の強みを活かした新たな防災システムの開発に取り組んできており、本ソリューションはその成果となります。

近年の防災意識の高まりによりお客様のニーズは多様化しており、火災などの災害においては予兆をより早く検知し、速やかな対処、避難や消火活動を可能とするシステムが求められています。

当社は、これまで総合防災企業として蓄積してきた火災発生メカニズムや検知方法、最適な報知方法などのノウハウを統合し、建物や構造物、設備機器類に敷設した OKI の「光ファイバーセンサー WX1033 A/B（以下 WX1033 A/B）」が異常温度を検知した際に、その位置や温度など発報に至った情報を、建物や設備系統図などの監視図面上にわかりやすく表示するアプリケーションを開発し、これを監視システムに組み込みました。

一方、「異常温度リアルタイム監視ソリューション」に使われている WX1033A/B は、OKI が通信市場で長年取り組んできた高速光通信技術を活かした、リアルタイムセンシングが可能な光ファイバーセンサーです。本装置は、OKI 独自の技術を採用し、従来の BOTDR 方式では数十分かかっていた温度計測が 1 秒で実施できるほか、1 秒周期で温度上昇を検出し、その発生場所を 1m 単位で特定することができます。

両社の強みを活かした「異常温度リアルタイム監視ソリューション」は、素早く災害の予兆をとらえることができるため、法令で義務付けられた防災設備を補い、防災や減災に寄与するソリューションとして幅広く活用することが可能です。

【「異常温度リアルタイム監視ソリューション」のイメージ】

